

このコーナーでは、ボランティアをしている人を応援し、ボランティアの「はじめの一歩」のきっかけになるような記事、またボランティアセンター開設に関する情報を掲載していきます。

『落ちた稲穂も大切に拾おうよ！』

『稲を切る感じが気持ち良かったよ！』
『刈っているうちにコツがつかめた！』
by 児童の感想から

専門の知識を持った方が、小学校の児童の学習や活動をお手伝いしてくださっています。
今回は、町内のいくつかの学校でとり入れられている米作りの学習についてお手伝いしてくださっている方々をご紹介します。

学習支援 米作り



宇美小学校で、米をはじめ農作物作りをお手伝いしている 宇美さん

子ども達が自分で作ったものを食べるということが、食育になると思います。夏休み前、収穫したトマトを持ち帰り、おうちで楽しんで食べたようです。こういう実体験が大切だと思います。



原田小学校の5年生に米作りを教えて下さっている

瓦田(政義)さんと瓦田(勝吉)さん

1本の茎から70~120粒の米がとれます。児童の皆さんも手をかけて育てましたが、太陽と土地のおかげでお米が出来ました。自然に感謝しましょう。



※小南さんと安河内さんもお手伝いしてくださっています。

桜原小学校にお手伝いに行っている百田さんと小林さん

その百田さんにお話を伺いました。(左の写真は小林さん)



年度の初めに6年生が、スライドにまとめた米作りの様子を発表し、各学年で分担していろいろな作業をしているようです。

田植えは4、5年生が、稲刈りは3、4年生がします。2反に実った餅米は、全校で餅つきをします。近隣のお年寄りを招いたりして、土曜日に行いますが、そのお手伝いもします。毎年、子ども達の目の色が違い楽しいです。



ボランコ屋から

ねえ、知ってる？
一粒のお米が70~120粒のお米になるんだって。



このおにぎりくらいのお米を残しておけば、来年たくさんのおにぎりが食べられるね！



でも田んぼがないし... お世話も大変だし...



あ!!



●(仮称)ボランティアセンター開設準備委員会 経過報告

第6回 (H21.10.22)

- ・公聴会におけるボランティア団体からのご意見について
- ・委員会提案書について

第7回 (H21.11.02)

- ・委員会提案書について
- 公聴会で出していた意見も盛り込み、町長にセンターについての提案書を提出しました。

編集後記：稲刈りの様子を見学させて頂きました。子ども達が生き生きと活動し、思いのほか鎌を上手に扱って、スムーズに稲を刈っていました。子ども達は「意外に簡単」「難しそうと思った」が半々でした。実際に体験してわかる事があるのだと思います。